「つまようじ法」普及を

歯周病予防歯磨き

渡辺達夫・岡山大歯学部名誉教授ら NPO法人設立

歯周病の予防対策として、歯茎を歯ブラシの先でつつくように磨く「つまようじ法」歯磨きを提唱する渡辺達夫・岡山大歯学部名誉教授らが、NPO法人「お口の健康ネットワーク」（本部・岡山市）を設立。この歯磨き法の普及を通して、予防医療の大切さを訴える。

渡辺達夫名誉教授

細菌感染から歯茎が腫れて出血し、悪化すると歯が抜け落ちる歯周病は、五十歳以上の日本人男性の八割が患う〝国民病〟。二十年以上前から「歯周病には治療より予防が有効」と主張する渡辺名誉教授は、マッサージによって歯茎の細胞を活性化させ強化する「つまようじ法」を考案、受診者に勧めてきた。実践した人の大半は、「二週間程度で歯茎からの出血がなくなり、歯のぐらつきも治まるなど、効果が出ているという。

NPO法人は主に歯科医や歯科衛生士ら専門職向け。つまようじ法の技術指導をはじめ、予防歯科の専門家による講演会や学術資料の紹介を予定している。すでに趣旨に賛同した全国の歯科医ら約二百人が会員として参加している。

[illegible]理事長を務める渡辺名誉教授は「高齢者の多くは自分の歯を失っているのが現状。ネットワークを通して、治療から予防へ歯科医療従事者の意識改革を進め、一人でも多くの人が自分の歯で一生食べられるための力になりたい」と話している。

問い合わせは同ネット[illegible]

（角南邦彦）